



TITLE:

米價調節の方法

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 米價調節の方法. 經濟論叢 1919, 8(1): 112-129

ISSUE DATE:

1919-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127474>

RIGHT:

米價調節の方法

河 田 嗣 郎

一 非營利主義の確立

米價問題に關しては近者頗る熱心なる研究の行はれ、調節の根本方策に關しても種々の意見の公にさるゝを見る次第である。現に本誌前號及び前々號に於ても戸田博士の該博なる研究の公にせられ米價調節の根本策として常平倉設置の急務なる所以が明かにせられた。而して吾人も亦此の問題に關しては平素より研究を怠らざる者であつて、今日の場合自家の所見を披瀝するは當然の責務なりと感ぜざるを得ない。

吾人の觀る所を以てすれば米穀の如き國民生活上の必需品は其の生産に於ても、其の賣買取引に於ても、之を以て純なる營利の目的物たらしむるを適當としない。現時の經濟組織の下に在りては殆んど總ての財の生産及び賣買取引は、私人の營利的企業として行はれ、農業生産及び農産物の取引も亦企業として營利の爲めに行はるゝを原則とする。尤も農業方面に在りては之を工業方面に比すれば自給經濟の狀態の保存されたるもの多く、生産が自給生産の面目を持する所多きは争ひ難き所であるが、然かも之を大體の傾向に就きて見れば、農業も亦頗る企業化し來り、營利の爲めに生産すると云ふ性質の大いに加はり、貨幣收支の計算に於て利得を剩さんことが、即ち農家

經濟の眼目を爲すに至れることは、否定し難き所である。況んや農産物の賣買取引の爲めに行はるゝ農産商業に至りては、全く之れ營利の爲めにせらるゝものであつて、純粹なる企業である。然れども審かに之を致ふれば、穀物其他大多數の食料品の如きは、固之れ人が生きたが爲めに第一に必要とするものなれば、其の生産及び分配は、謂はゞ社會の爲めに人々の義務としても行はる可きものであつて、其の生産及び交易が單なる私的營利の爲めに行はる可き筈のものでない。此事は食料品には限らず、生活に必要なあらゆる財に就きて同様の義であるけれども、特に食料品の如く其の消費が人の生存の第一要件を爲すものに於て然らざるを得ない。

されば吾人は致ふるに、今後米穀其他食料品に關して政策を講せんとするに當りては、先づ根本的に此の問題より致へて掛らなければならぬ。若し食料品をして其の生産を豊かにし其の需給の状態を整へ、天下萬人をして十分に且つ餘りの不公平なく其の分配に預り鼓腹して幸福なる生存を爲すを得せしめんとすれば、其の生産分配は、之が任に當る者の私の利益の爲めに行はる可きにあらずして、廣く天下の共同福祉の爲めに行はる可きものたるの根本原則を確立せなければならぬ。換言すれば其の生産交易が企業の爲めに行はれ、食料品を以て營利の目的となし其の生産及び交易を營利の手段と心得る現在の状態を改革せなければならぬのである。即ち終局の理想に於ては食料品の如きに關しては先づ第一に其の生産及び分配が社會の手に依りて行はれ、私人たる生産者及び商人が其間に營利の指を染む可き餘地なからしめ、生産は廣く社會一般の利益の爲めに行はれ、分配も從て亦廣く社會萬人の間に過不及なく行はるゝの状態が造り出されなければ

ばならぬのである。

けれども斯の如きは終局の理想であつて今遽かに之を實現し得可きものでない。現實の問題としては唯だ此の根本原則を容認して漸次之に向つて推移進展し行く可き道筋を拓き、又其道に一步步を着け行々工夫を凝らすことである。即ち先づ以ては食料品の生産増加、其の需給の整頓其價格の調節に關しては、國家自ら積極的に努力し、成可く其間に有する私人的營利の餘地を少からしめ、之に關する有効なる實際方策を樹立敢行し、漸を以て之等に關する進止の全權を國家社會の手に收むるを得可き基礎を造ると云ふことである。

此の根本方針よりして之を致ふれば今差當りての問題たる米價調節の如きも、其の生産及び賣買取引を私人の事業に委す限りは、米穀の國內に於ける總需要に對して其の供給を適合せしむるに就き國家が有効に之を支配し得るの道を造ることが、先づ第一の急要事である。現時の經濟組織の下に於ては米價を調へんと欲せば需要に對して供給をば都合好く制理し行くより外に道はないのであるから、國家が能く有効に此の供給制理を爲し得可き道を開く事が、總て之れ根本的に米價を調節し得可き唯一の方法である。而して吾人は此の供給制理の有効なる道を開かんが爲めに、國家は一方に於て國內の米穀生産額を増加す可き方策を講じ、同時に又外國より容易に之が補給を仰ぎ得可き連絡を造るの傍、他方に於ては米穀の賣買に關し生産者が個々に之を爲すを禁止、併せて又米穀取引の中心市場を整へ其の組織を改革するの策を講せんことを希望する者である。進むで其の方策の大様を論ずるに先ちて、少しく米價調節の問題が需給調節特に供給調節の

問題と、生産費節減の問題とに岐るゝ所以を致へ、以て其各々よりして此の方策に到達する道筋を見出すであらう。

二 生産費低減乎供給調節乎

米穀の如く其の需要が長き年月に涉りて之を觀れば多少づゝ變化し（通常増加し）行くけれども、一年と云ふ位の短き期間に就きて觀れば其間著しき變化の認む可きなきものに在りては、其の價格の構成に於て、生産費の關係は唯だ長き期間に涉りて米價を致ふる場合にのみ問題となり來り短き期間に就きて致ふる場合には、唯だ需給の關係のみが問題となるものである。茲に於てか、米價調節の政策上國家的に生産費の節減を計ると云ふことは、長き眼を以て米價を觀、數年十數年と云ふ内に漸次米價下落の勢を馴致し、若くは其の昂騰の勢を緩和するに効果があり、年々に於ける價格の變動特に其の亂高下を防止し又一年内に於ける價格の差違（例へば出盛期と端堺期とに於ける値開き）を少からしめんとするには、其の需要供給の關係を整へ餘り動きなき需要に對して供給を都合よく適合せしむると云ふことが、必要となつて來るのである。

我國の現状の如く人口の年々に増加し米穀需要の着次増加し行くに拘らず、米産區域の限局されたる所に在りては、其の供給の爲めに漸次に所謂耕作限界を擴げて行かなければならぬ結果として、之を永きに涉りて見れば米價は生産費の漸次増加する關係上、鰻上ぼりに上ぼり行くを免れぬ。之を統計に照し見るも明治初年以來今日に至るまでだけにても、米價は年々多少の高下こそ

あれ大體の傾向に於て騰貴の勢を續け、然かも其勢は比較的急速であつて、一般物價の騰貴歩合以上に出て居る。此事は歐米諸國の主要食料品たる小麥の價格が漸次下落の勢を續け來れると比較して我が國民經濟に取りて大いなるハンデキャップたるや否定し難き所である。然るに今此の米價漸騰の勢を緩和せんと欲するならば、其の方策としては大いに門戸を開き又國民嗜好の變化を計りて外國米の招致及び消費を盛ならしむるか、若くは(或は同時に)國內に於ける生産増加生産費低減の道を講ずるかの事をせなければならぬ。而して後者は從來銳意行はれたる方策であつて、其の効果も決して觀過し難いものがある。若し我が國人の米に對する嗜好の俄かに變じ難く然かも外國米は甚しく嗜好に適せずとならば、此の後者の方法が専ら行はれなければならぬことは當然である。けれども此の生産費低減と伴へる生産増加は技術的にも經濟的にも中々容易なる事業ではなく、從來の状態を以てしては之に由る米價騰貴緩和の力は甚だ微々たるものであつて、之あるにも拘らず米價は大體の傾向に於て著明なる騰貴の勢を續けて來た。將來亦此の騰貴の勢の大體に於て容易に衰ふ可しとも見へぬのである。果して然りとすれば、將來の方策としては、從來の如く外國米の輸入は比較的之を困難にして置いて専ら國內の生産増加生産費低減の策を講ずると云ふ方針を改めて、若くは其の方針を和らげて、安き生産費を以て生産されたる安價なる米國米の輸入を容易ならしめ、以て需給の不適合及生産費加増の原因より來る米價漸騰の大傾向を緩和するに努めなければならぬ。彼の食料の國家的自給政策の必要とか、右の方針の爲めに我が國內農業が大打撃を被り農民經濟の大衰頽を來す可しとか云ふ議論は決して右の根本政策を不可

ならしむるに足るものではない、

けれども米價問題の中心は永きに渉る米價漸騰の一般的傾向に存するよりも、寧ろ多く年々に於ける米價の亂高下に存するのである。從て其の政策の議論は生産増加や生産費低減に關する所よりも、年々に於ける需要と供給とを調のへ其間に生ずる價格をして常軌的なものたらしめ、調子外れの暴落暴騰を防止することに關する所大なるを忘れてはならぬ、即ち穀物の如きは其の需要に彈力性の乏しきものなれば、市場組織の健全なる所に在りても尙且價格の高下の程度は需給不適合の程度よりも大なるを免れ難きに、我國の如く市場組織の不完全なる所に在りては、需給の不適合より來る價格昂落の程度は實に驚く可く大なるものあり、然かも之は生産者に取りても消費者に取りても共に大いなる苦痛なれば、此の需給の不適合より來る亂高下を防止し少くとも其の程度を緩和すると云ふ事が、差當りては問題の中心を爲すのである。而して之を爲すに就けては前にも一言せしが如く米穀に對する需要には彈力性乏しく短き期間内に於ては國民の總需要量が著しく増減することは無きものなれば、其の稍々定まれる需要に對して供給を都合よく適合せしむるの方策を講ずることが何より必要である。つまり調節の問題は需要と供給との關係に繋がれ、然かもそれは主として供給を如何に調節すべきかと云ふことに繋がる次第である。

尤も需要の方面にも問題は無關係なのではなく、國民の需要を整へ其の浪費を防ぎ特に食料としての直接の需要以外例へは造酒に關する制限の如きは、米價調節の問題上決して輕からざる意義を有するのであるが、之は併し問題の輕重より謂へば供給側に存する調節の必要に比し太だ輕

き意義のものたるを否むことが出来ぬ。

斯るが故に即ち吾人は我國現下の問題としては米價調節の政策は主として之を供給の調節に求む可しと爲す次第であつて、先きに米穀の生産及び賣買取引を營利の目的の爲めに行はしめず、少くとも其間に營利的要素の入り来る餘地を少からしむるを必要とすと言へるは、此事情に關聯してのことである。仍て少しく此の本題に立歸つて論究するであらう。

三 生産者個別販賣の禁止

吾人の觀る所を以てすれば我國内に於ける米穀の總需要に對して其の供給を調へ、兩者の適合より来る市場關係をして健實なるものたらしめ、從て其間に生ずる米價をして安定的なる正調を得たる從て合理的なるものたらしめんが爲めには、現今の米穀賣買取引に關する一般狀態を根本的に改革するの必要がある。現今の如く穀物の賣買が個々人の間に個々人に依りてばらくに行はるゝ狀態は、個人主義の基礎の上に立つ現時の經濟組織の下に在りては當然の狀態であるかも知れぬ。併し乍ら今米穀の價格に關して社會的なる要求の生じ、其の亂高下を防止緩和することが社會的利益の立場よりして必要とせられ其爲めに社會團體としての國家が何等かの行動を取ると云ふことになるならば、此の個人的なる取引關係に對して國家が制限的干涉を試むるは已むを得ぬ所である。而して其の國家の干涉をして十分有効なるものたらしめんが爲めには、其の個人的取引關係を大いに制限することの必要なる限り、之れ亦已むを得ぬ所である。場合に依りては

米穀の賣買取引に關し或種の人々の個人的取引を禁止することあるも已むを得ぬ次第である。然るに吾人は今我國に於ける米價の根本的調節を行はんが爲めには、此程度にまで踏込みたる國家の政策を必要なりとする者であつて、根本的に其の供給調節を行はんとせば、現今の組織の下に之を行ふ分では所詮十分なる効果は擧げ難いと信ずる。

先づ之を生産者の行ふ販賣より論ぜんに、若し能く全國に於ける米穀の販賣狀態換言すれば市場に對する供給狀態を知り之に對し國家が有効なる調節の手を伸ばさんとするならば、現今の如く之を個々の生産者が個々に之を市場に向つて供給する狀態を以てしては到底其の目的を達し難い。政府が常に好く國內市場に於ける米穀の供給狀態を知り特に其の數量を精知し又之に對して調節上必要なる伸縮の手加減を加へんと欲せば、米穀は生産者が之を市場に向つて個別に販賣するを禁止し、之を集合取引たらしめなければならぬ。集合取引の方法としては國家の手に依る專賣制度の如きは最も徹底的のものであるが、併し今米穀に就きて政府の專賣制を布かんことは現狀にては不可能である。即ち先づ我國現今の財政能力を以てしては之に要する經費の調達し難きのみならず、我國現下の人的能力を以てしては、之が組織の運轉——尤大にして頗る複雑なる組織の運轉——の有効なるを望み難い。従て專賣制度は之を後日我が一般文化と經濟狀態との今少しく進歩する迄延期するの外はない。差當りて行はれ得き集合取引の方法は今正に政府當局に依りて全國に向つて其の普及の勸奨せられつゝある農業倉庫を利用し之に依りて行はしむるの方法である。

試に少しく此の方法に依る集合取引に就きて攷ふるに、先づ吾人は農業倉庫をして全國に普及せしめ其の管理は農業倉庫法の定むる所に従ひ或は市町村自ら或は農會其他農業の發達を目的とする公益法人或は産業組合をして之に當らしめ(農業組合の經營者としては産業組合が最も適當である。其の理由に就いては拙著『農業倉庫論』第五章第二節を参照せられたし)苟も市場に出づる米穀は悉く農業倉庫の手を経可きものと爲すを可なりと信ずる。即ち米穀は農生産者が個々に之を生産するとしても、自家消費の爲めに直接に用ゐるものは別とし、苟も之を賣却せんとする場合には生産者各自には之を爲さしめず、法律を以て各自の個別的なる賣買を禁止し、米穀を賣らんとする生産者は悉く之を自己所屬の農業倉庫に齎して其手を経て賣却す可きものとするのである。

之は一見甚だ實行不可能なるが如くに見ゆるけれども決して左うでない。現今でも既に各府縣に於て米穀品質の検査を勵行し多くは生産検査として生産米一切を検査し、然らざるものに於ても苟も市場に賣買さる可きものは悉く之を検査し、検査の證明あるものにあらざれば、賣買を許さざる事となつて居る。此の産米検査の事業にして既に實行可能にして且つ有効に行はれ居るからには、之を今一步進めて、米穀の賣買を生産者個々に爲さしめず、必ず農業倉庫の手を経て爲さしむることゝ爲すは、決して甚しく困難なる事業ではない。個々人が自ら商人に賣るも、農業倉庫をして自己に代りて賣らしむるも生産者に取り同じく之れ販賣するものたるに外ならぬ。否斯くするに於ては各生産者は販賣上の手数を省き、然かも其の賣却は中間小商人の手を煩はすな

く、又倉庫に於て多數量を取纏めて賣る結果として多少ともに生産者に取りて有利に賣却するを得ることとなり、生産者に取りては遙かに便利である。加之生産者は倉庫が寄託米穀を賣却するに先ちて其の代金を得るの必要ある場合には倉庫は其の前貸を爲すを得可きものなれば、賣却は然る可き時期に倉庫をして之を爲さしめ、生産者は其の生産米を逸早く資金化するを得て、大いなる利便を其間に收むるを得るものである。之れ洵に農業倉庫の生産者に與ふる利益にして農業倉庫の私經濟的効能は實に茲に存する。

四 農業倉庫と常平倉

斯くの如くにして今法律を設けて生産者が個別的に米穀を販賣するを禁じ、全國に於ける米穀の市場供給は悉く農業倉庫の手に依りて行はるゝものたらしむるに於ては、政府は常に全國の農業倉庫業を監督し其の在庫米の現在高報告を或時期毎(例へば一週間毎又は一ヶ月毎)に徴する事に依りて全國市場に表はる可き米穀の總供給量を精知するを得、需要に對して常に其の適合の狀況を致へ、其の調節を行ふが上に最も安全なる根據を見出すを得ることとなるのである。此の狀態は譬へて之を言へば個々の屋根瓦より落つる雨滴を集めて樋を通過せしむるに似たるものであつて、瓦毎に落つる分では始末し難き雨水も集めて樋を通らしむるに於ては其の始末の容易なると同様の理窟である。而して全國の農業倉庫が營利を目的とせず専ら公益の爲めに働き(之れ農業倉庫の農業倉庫たる所以であつて、農業倉庫業法中にも然か規定されてある)相呼應し相協力

して遺憾なく其の任務を果すに於ては、之が爲めに全國の米穀物需給關係の整ひ、米價は稍々安定を得、一年内を通じて甚しき價格の開きを示すことなきに至るは勿論、各年毎に於ける亂高下も大に緩和さるゝに至る可きは明かである。之れ即ち農業倉庫の國民經濟上に於ける機能である(詳しくは拙著『農業倉庫論』第三章第一節參看)

然れども今若し國家が更に有効に供給調節の施設を爲さんと欲せば、以上を以て満足せず、此上更に一步を踏込まなければならぬ。即ち右の如く全國に於ける米穀の市場供給を農業倉庫の手を経て行はしむることゝ爲すに於ては、年々に於ける需要と供給とは現狀に於けるよりも遙かに都合よく適合するに相違ないけれども、併し尙ほ此分では、年々の作柄の豊凶より來る供給の過不足をば年に涉りて按排し、以て年々に於ける米價の變動を少からしめ、米價をして十分なる安定を得せしむるに遺憾なきを期することが出來ぬ。其の遺憾なきを期せんと欲すれば國家は更に一步を進めて、市場に供給さるゝ米穀の一定量をは政府自身に於て買取り、之を保有して供給調節の任に當らしめなければならぬ。即ち作柄豊稔にして供給に餘りあり米價從て大いに下落せんとする勢ある場合には政府は米穀を買占めて其の適當量を市場より抜き取り、之を保管して市場の供給量を減じ以て米價の下落を防ぐと同時に、凶作にして市場の供給足らざる場合には輒ち其の保有米を市場に放出して供給を裕かにし、以て米價昂騰の勢を抑制するに努めなければならぬのである。

此は即ち現今大いに推奨せらるゝ常平倉の施設であつて、恰も之れ貯水池に似たる働を爲すも

のである。餘れるを蓄へ足らざるに際して出すの働に依り、市場に於ける米穀供給の調節辨たらしめ、以て米價調節の樞要機軸たらしむる仕組である。

吾人は此の必要の爲めに常平倉設置の議を主張するものであるが、併し或論者の如く、市場の組織を現狀のまゝに放置して唯だ常平倉をのみ設く可しと爲すものではない。吾人の觀る所を以てすれば、縱令常平倉の制を設くるとも、現狀の如く米穀の市場に對する供給が生産者個々の手に依りてばら／＼に行はれ之を制調す可き道筋の立ち居らざる有様にては、常平倉は多く其の効力を發揮し得可からず、之を發揮せむとせば頗る巨額の經費を投じ常に莫大なる量の米穀を買收し又は賣放つに足る實力を供へなくてはならぬ。若し此の實力なきに於ては曾て大隈内閣が之を試みたる例に依りても明かなる如く、殆んど米價を動かすに足るものなくして、中途半端に終るを免れ難いであらう。然るに今吾人の主張の如く米穀の市場供給は生産者個々人には之を行はしめず、必ず農業倉庫の手を経て之を行ふ可きものと爲し、以て其の供給の道筋を少からしめ、國家は唯だ此の大筋だけを取締り全國の農業倉庫をして供給上の締弛を爲さしむるだけにても既に多少は供給調節を有し得るの組織を造り置き、然かも尙ほ其上に其の組織を基礎として國家自らも常平倉の設置を爲すに於ては、其の供給上の効力は頗る偉大なるものたり得るや明かである。即ち斯くするに於ては常平倉なきも既に可也有効に供給調節を爲し得る次第なれば、常平倉としては必ずしも巨額の經費を以て巨大の米穀量を買取り又は賣放つを必要としない。比較的僅少の經費と小量の保有を以て能く偉大なる調節作用を爲し得可きを疑ふことが出來ぬ。

斯かる組織を立つるに於ては全國の米穀供給は政府の常平倉と各地方の農業倉庫とのみを通じて行はるゝこととなり、其の調節の働は常平倉と農業倉庫とが調子を一にし相呼應して協同的に之を行ひ、其狀恰も教師と生徒と體操を爲すが如きものとなる。教師は音頭を取り模範を示し生徒は一切に之に倣つて律序的に運動を爲すと等しく、常平倉の音頭に應じて全國各地の農業倉庫は擧つて一致の調節行動に出づることが出来るのである。常平倉は茲に於て甫めて其の効力を發揮し、米穀供給調節の行届き米價に對する有効なる調節作用は茲に甫めて適確に表はれ來ることとなるであらう。

此の組織の下に於ては常平倉の設備の如きも必ずしも政府自ら倉庫を所有するの必要はない。常平倉と云ふ名稱の附せらるゝ可き特別の倉庫あることは必要の條件ではなく、唯だ其の組織と其働とだにあれば事足る次第である。されば最も簡便なる方法としては、政府が必要に應じて米穀を買取る場合には之を買取りたる所に於て便宜なる場所に隨所の農業倉庫を利用し之に政府所有米を寄託し、全國合計何某量を政府が所有すればそれでよいのである。

元來農業倉庫なるものは公營的のものにして營利的のものならざれば、此の目的の爲めに政府が農業倉庫を利用するは最も當を得たる所である。斯くて國家は經費を節約し出來得る限りの少き費用を以て然かも便宜に米穀の買入保存を爲すを得、應て其の保有米を市場に賣出す必要の生じたる場合には、又便宜の場所に於ける農業倉庫をして當該量の米穀出庫を爲さしむることとする。全國の農業倉庫は互に業務上の連絡を取りて働く可きものなれば、政府持米の入庫と出庫と

同一倉庫たるの必要はない。恰も銀行に於ける爲替取引の如く、政府は自己の選ぶ場所の農業倉庫に米穀を寄託して又自己の選ぶ任意の場所の農業倉庫より米穀の搬出を爲すを得るのである。之は洵に便宜な方法であつて、農業倉庫業の普及發達を計り其の組織の上に常平倉の働を加味するの利便の決して尠少なざるを知らなければならぬ。

五 正米市場と定期市場との改善

以上論ずる所は米穀が生産者の手を離れて市場に出づる迄の道筋に關しての組織改革の議論である。從て問題は更に進むで米穀が市場に出でたる後を如何にするかに及ばなければならぬ。

全國の農業倉庫の手を経て市場に出で来る米穀はやはり現狀通り米穀取扱商人に依りて賣買取引せらるゝの外はない。唯だ異なる所は現狀に在りては生産者が個々に商人に賣却するが故に市場に表はれ来る米穀は先づ多數の地方的小商人の手を潜りて後大商人の手に移り来るを例とするに反して、生産者個々の代りに農業倉庫が集合的に米穀販賣を行ふに至れば、その販賣量は比較的多量なるを常とす可ければ、地方小商人の力を以てしては其の買取を爲すを得可からず、又農業倉庫も努めて地方小商人の手を経ずして直接に大市場の大商人と取引するに至ることとなり、將來に於ては現在の多數の地方的小商人が米穀の賣買に参加せざるに至る可きことである。此事は米價構成上には喜ぶ可き現象であつて、之が爲めに中間小商人の儲けるだけの額は米價を低安ならしむることとなり結局消費者を利す可き筈である。

斯くて東京とか大阪とか兵庫とか云ふが如き大中心市場の大商人が全國の農業倉庫より買集めたる米穀は如何になり行くかと云ふに、それは實に此所に其の市場に於て需要と出逢ひ其間に米穀の價格が成立しなければならぬ。而して此の需給關係の競合に依りて生ずる米價をして、能く需給の實際狀態に適合せしめ、其間に於ける種々なる遇然的要素の混入を防ぎ、需要と供給をして眞に好く經濟界の實狀に合致せるものたらしむることは、又實に米價調節上必要なる任務である。米價調節の任に當るからには國家は又此に關しても施設する所なくてはならぬ。

現在に於ける米穀の市場取引關係は甚だ不整頓にして其狀頗る幼稚なる譏を免れ難い。此の狀態を整へ今少しく之を組織的ならしむる所なくては、米價構成の不自然に陥り不合理的なるに至るを避くることは出來ぬ。米穀に限らず一般に我國に於ける商品の市場組織は不健實であるが、米穀の如く商品としての市場關係の廣く且つ複雑なるものにありては、先づ第一に其の組織の完備さるゝ必要がある。然らば之を如何にす可きかと云ふに、それは政府に於て整備せる正米市場法を制定し、之に準據せる完全なる市場組織を造らしむるを以て急務とせざるを得ない。正米市場法制定の必要は夙に論せられてあるに拘らず、未だに其の實現を見ることの出來ぬのは太だ遺憾である。苟も米價調節でもやらうと云ふ位ならば、先づ以て米穀取引市場の狀態を整頓し、其の取引の準據を定め、取引をして健實のものたらしめ、眞實なる需要と現實なる供給との適合を得せしめ、其の適合をして自然的ならしめ、以て這間に構成さるゝ米價をして合理的のものたらしむるを必要とする。

斯の如くにして中心地たる二三大市場に於ける現物價格が健實に構成さるゝに於ては、それは廳

て全國各地方に傳達されて、地方的取引の標準となるものなれば、是が爲めに全國各地の米價は等しく安定を得ることとなる。而して農業倉庫の如きは、其持米を大商人に賣るの外、直接に兵營、學校、工場其他の大消費者に賣るに努む可きものなれば、之亦其の賣買の價格標準を此所に見出すを得て少からざる便益を得ることとなり、つまり全國の米價が爲めに大いに整へらるゝの結果を齎す次第である。

正米市場を整備すると同時に必要なる事は、定期取引市場の改善である。定期取引なるものは其が健全に行はるゝ限りは國民經濟上に必要なるものであつて、多數の人々により多くの需要と供給とが此所に輻輳し、多數が相競合することに依りて其間に存する人的場所的並びに時間的な特殊事情の互に平均せられ、茲に眞實の需給適合を見出すを得て、其間に定まる價格は公正なる價格たるを得可き性質のものである。而して取引所市場に於て賣買を營む者は何れも皆其道の達人にして能く米穀の需給關係に就き其時々之實狀を了知し居る者なれば、全國の需要と供給とは此所に都合よき適合を見出さなければならぬ筈である。而して取引所に於て定まる價格は全國に普及して其の標準を爲すは勿論のこと、定期取引の相場に至りては常に現物取引相場に對して嚮導の役を務め、之に對して目標を示し歩度を示すの任に當るものである。

されば國內に行はるゝ定期取引が健實の取引なると然らざると、取引所の組織の整へると然らざると、取引所の機能が十分に發揮されたと然らざるとは、米穀價格の構成上には、實に少からざる影響を及ぼすものたるや、誰しも之を否定し能はざる所である。而して我國現在の米穀取引所の取引狀態が甚だ健實を缺き、兎角賭博的投機に流れ易くして、然かも空虚なる假裝的需給に

依りて行はるゝ取引の多く、取引契約高に對して實際の受渡高は常に百分の一、二に過ぎざるが如きは此の意味に於て最も憂ふ可き所と謂はねばならぬ。斯るが故に今若し米價調節の事業をして十分有効ならしめんが爲めには、此の定期取引市場の狀況を改善するは甚だ緊要なる事項たるを忘れてはならぬ。而して其の改善の方法に至つては種々の方策の致へらる可きであるが、要するに取引所に於て行はるゝ取引を賭博視する一般の氣風を改め、同時に直接其の取引に従事する仲買人の品格を高め、更には又空虚なる假相取引の行はるゝ餘地なからしめて、眞實の需給より生ずる眞實の取引ならしめ、其の取引は公正なる價格を定むるが爲めに行はるゝものたらしむることが改善の眼目である。

六 理想的狀態と實行策

凡て上に論ずるが如くにして米穀の賣買取引に關し、先づ其が生産者の手を離るゝ所よりして、終には市場に於て需要と出會し之に對する適合によりて價格の決定さるゝに至る迄の道筋を整理改善するに於ては米價調節の事業は必ずや相當の効果を擧げ得なくてはならぬ。而して改善の要點は組織に存する。即ち先づ供給に關する組織より始めて終に需給適合の組織に及び、廣く米穀の賣買取引に關して其の市場組織を改革することが、米價調節の根本方策である。此の組織を改善するなくしては價格調節の事業は到底能く効果を奏し得可きものでない。而して既に一度供給に關する道筋の整へられ、又需給適合に關する狀態の改善されたる以上は、其間に生じ來る可き價格は眞實其の場合々々に於ける實狀に適當せる價格なれば、其の價格に對しては生産者も消費者

も共に満足せなければならぬ。

兎も角斯の如くにして價格の定まりたる以上、米穀が更に又大商人より小賣商人の手に移り精白されて終に消費者の手に入り来る道筋に於て、多少は又高價となるを免れぬけれども、其間に甚しき弊害の生ずる事は從來とても多く之を見ざりし所である。蓋し之れ商人間に於ける互の競争に依りて自ら然るものであつて、定期及び正米市場の價格の一般に公にせられ、消費者も日々之を知る以上は、米穀の小賣市價をして甚しく之と懸隔せしむることは實際に出来難い所である。されば米價に關して最も問題の觸るゝ所はそが生産者の手より出で、中心市場に於て一般的相場定めらるゝまでの取引關係たるに外ならぬ、從て此の取引關係に就きて組織を革め方法を改善するに於ては、米價調節の問題は先づ一通り其の解決を見出し得るものと謂はねばならぬ。

而して以上吾人の論ずる所は、先きに吾人の掲げたる理想的狀態に向つて進む可き第一歩としての實行手段に就きての事たるに過ぎぬ。從て決して此だけを以て満足す可きではなく、先づ此の第一歩の着けられ之に依る改善の行はれたる以上は更に第二歩第三歩を進み、漸を以て着々と改革の謀を廻らし終に彼の理想の狀態に到達す可きである。其の理想の狀態に於ては、既述の如く米穀其他食料品の類は、先づ以て、營利的の爲めに其の生産交易の行はるゝことなきに至り、社會の爲めに社會的行はるゝことならなければならぬ。されば此の理想に向つて進む可き改善の一步々々も亦漸次に米穀類の生産交易に關し營利的分子の入り来る餘地を少からしめ、個人の營利的行動に代ゆるに公益を目的とする社會的施設を以てせなければならぬ。吾人が推奨する米價調節方法は即ち此の大理想に順應す可き第一歩としての實行方法たるに外たらぬのである。(終)